

【目次】『国際法入門——逆から学ぶ——』

はしがき

本書の利用の仕方

第1章 国際法の基礎	1
1 国際法とは何か	1
2 国際法は難しい	2
3 国際法は楽しい	7
4 国際法の構造転換	9
第2章 武力行使禁止と自衛権	13
1 武力行使禁止原則	13
2 個別的自衛権	17
3 集団的自衛権	21
4 自衛権以外の武力行使の根拠	24
◆ Case ニカラグア事件	23
◆ Further Study 保護する責任	25
第3章 集団安全保障	28
1 集団安全保障の登場	28
2 国際連盟における集団安全保障	29
3 国際連合における集団安全保障	30
4 中立	37
5 平和維持活動 (PKO)	38
◆ Case ある種の経費事件	40
◆ Further Study 平和構築委員会	42
第4章 主権と自決権	45
1 国家主権とは何か	45
2 人民の自決権	48
3 不干涉原則	55
◆ Further Study 救済のための分離権？	53

- ◆ Case コソボ独立宣言の国際法適合性 54

第5章 国家・政府の誕生と内戦 61

- 1 国際法における国家及び政府 61
- 2 国際法における内戦 63
- 3 国家の誕生 66
- 4 政府の変更 71
 - ◆ Case パレスチナ分離壁事件 65
 - ◆ Further Study 分裂国家 71

第6章 国家管轄権 76

- 1 管轄権の意義と種類 76
- 2 立法管轄権の基礎 77
- 3 管轄権の拡大 84
- 4 執行管轄権の調整 88
 - ◆ Case ローチュス号事件 80
 - ◆ Further Study インターネット犯罪 87

第7章 管轄権の制限 90

- 1 外交・領事特権免除 90
- 2 その他の国家機関の免除 96
- 3 主権免除 99
- 4 国際機構の特権免除 103
 - ◆ Further Study 外交的庇護 93
 - ◆ Case ビノチェト事件 97

第8章 国家領域 106

- 1 領域の区別 106
- 2 領域権原 108
- 3 領域移転に関連する原則 112
- 4 領土紛争 114
- 5 日本の領土紛争 115
 - ◆ Case パルマス島事件 109
 - ◆ Further Study 権原の歴史的凝固 113

第9章 領域使用	119
1 領域主権の意義	119
2 天然資源と国有化	122
3 領域使用の管理責任	126
4 国際化地域	128
◆ Further Study	しのびよる国有化 124
◆ Case	トレイル溶鉱所事件 128
第10章 海洋法の構造	133
1 多元的構造	133
2 領海	134
3 国際海峡	140
4 群島水域	142
◆ Case	ノルウェー漁業事件 135
◆ Further Study	特定海域 142
第11章 海洋開発	145
1 排他的経済水域	145
2 大陸棚	149
3 公海	153
4 深海底	155
◆ Case	北海大陸棚事件 151
◆ Further Study	島の制度 152
第12章 海上管轄権	158
1 内水及び領海における刑事管轄権	158
2 接続水域と継続追跡	159
3 公海における刑事管轄権	163
4 海洋汚染防止	167
5 国連海洋法条約上の紛争解決手続	169
◆ Case	サイガ号事件 (No. 2) 162
◆ Further Study	ソマリア沖海賊・武装強盗 166
第13章 空・宇宙及び南極	173
1 空	173

- 2 宇宙 176
- 3 南極 181
 - ◆ Further Study 大韓航空機撃墜事件 174
 - ◆ Further Study 北極 185

第14章 外国人法 188

- 1 国民と外国人 188
- 2 領事保護 191
- 3 外交的保護 192
- 4 難民 195
- 5 国籍 199
 - ◆ Case ラグラン事件 192
 - ◆ Case ノッテボーム事件 194

第15章 国際人権法 203

- 1 人権の法典化 203
- 2 さまざまな人権条約 205
- 3 人権条約の国際的実施 208
- 4 国連機関による人権の実現 212
 - ◆ Further Study 国際人権法と国際人道法の「交錯」? 208
 - ◆ Case ゼーリング事件 211

第16章 国際人道法 216

- 1 国際人道法とは何か 216
- 2 国際人道法の適用される事態 217
- 3 敵対行為に直接参加する者（交戦者の資格） 219
- 4 敵対行為の方法 221
- 5 敵対行為の手段 223
- 6 武力紛争犠牲者の保護 225
- 7 国際人道法の履行確保 227
 - ◆ Case 核兵器使用の合法性事件 224
 - ◆ Further Study 民間軍事組織 226

第17章 国際刑事法 230

- 1 国際犯罪 230

2	国際司法共助と犯罪人引渡し	232
3	テロの規制	235
4	国際刑事裁判所	238
	◆ Case 張振海事件	234
	◆ Case 引き渡すか訴追するか ^の 義務事件	236
	◆ Further Study 国際刑事裁判所(ICC)に国は協力的? 非協力的?	242
第18章	国際経済法	244
1	国際経済法とは何か	244
2	第二次世界大戦後の世界経済秩序	246
3	世界貿易機関(WTO)	247
4	地域経済統合	253
	◆ Case アメリカ合衆国・キハダマグロ事件、アメリカ合衆国・エビ事件	250
	◆ Further Study WTO 紛争解決手続	252
第19章	国際環境法	257
1	環境問題と無過失責任	257
2	手続的義務	259
3	地球環境保護条約の基本原則	262
4	地球環境保護条約の特質	267
	◆ Further Study チェルノブイリ原発事故	261
	◆ Case パルプ工場事件	266
第20章	国際連合法	272
1	国連法とは何か	272
2	国連の組織・構造	274
3	国連の法人格と権限	280
4	国際公務員制度	283
	◆ Case 国連のある種の経費事件	281
	◆ Further Study 国際機構の国際責任	282
第21章	国際法主体	287
1	国際法の主体とは何か	287
2	国家	288

- 3 国家平等 289
- 4 国際機構 291
- 5 個人 294
- 6 人民 298
 - ◆ Case 原爆訴訟（下田事件） 296
 - ◆ Further Study 企業の国際法主体性 297

第 22 章 条約の締結と効力 301

- 1 条約 301
- 2 条約の締結 303
- 3 留保 305
- 4 条約の適用 312
 - ◆ Further Study 当事国と締約国 305
 - ◆ Case ベリロス事件 311

第 23 章 条約の無効と終了 316

- 1 条約の承継 316
- 2 条約の無効 319
- 3 条約の改正と条約の終了・運用停止 323
 - ◆ Further Study 人権条約の自動的承継？ 319
 - ◆ Further Study 国に対する「強制」についての論争 321
 - ◆ Case ガブチコボ・ナジマロシュ計画事件 326

第 24 章 国際法の法源 329

- 1 慣習国際法の成立 329
- 2 慣習国際法と条約国際法の関係 332
- 3 慣習国際法の効力 335
- 4 国際法の法源 338
- 5 義務の淵源 341
 - ◆ Further Study 一般国際法のミステリー 336
 - ◆ Case 核実験事件 342

第 25 章 国際法と国内法 344

- 1 国際法と国内法の関係 344
- 2 国際法レベルにおける国内法の地位 346

3	国内法レベルにおける国際法の地位	348
	◆ Case 砂川事件	351
	◆ Further Study 国際裁判所の判決	355
第26章	国家責任	358
1	国家責任の概念	358
2	行為の国への帰属	362
3	国際義務の違反	366
4	国家責任の解除	368
	◆ Further Study 国の国際犯罪	360
	◆ Case 在テヘラン米国大使館事件	365
第27章	紛争解決	373
1	国際紛争	373
2	紛争解決に関する基本原則と手段	374
3	仲裁裁判	377
4	司法的解決	378
5	国際司法裁判所	381
6	私人を含む国際紛争の解決	385
	◆ Further Study 国際司法裁判所による安保理の司法的コントロール	386
	◆ Case ロッカビー事件	387
第28章	国際法の法的性質	389
1	国際法の特質	389
2	国際法の解釈と執行	391
3	国際法は法か	395
4	国際法の展開	397
5	国際法の展望	400
	◆ Further Study 国際法の拘束力の根拠	396

Quiz の答

Summary の答

Suggested Readings

Digital Archive